

(3) 2014年度 ふうあいねっと事業計画書 (案)

1. 事業実施の方針

広域避難者がかかえる多様な課題のなかで、とくに「孤立防止」と「生活再建」を重要課題として、つながりの創出や情報提供等をおして避難生活を送る方々の歩みをサポートする活動を行う。震災経過後4～5年という時期を意識し、ふうあいねっと加盟団体のみならず、茨城県内外にある多様な社会資本ならびにセーフティネットとの連携を強化し、サポート体制を拡充することも必要である。避難生活も社会状況も大きく変わりつつある中で、当事者そして避難者グループとともに、効果的な活動を柔軟に展開できる組織運営を行うための体制づくりを行う。

2. 事業計画

課題1. 孤立防止

①見守り活動

孤立防止のため、まず取り組むのは見守り活動である。茨城県内で、訪問支援活動が行われている地域はごく一部であり、加盟団体の取り組みにより多少広がってきているが、手つかずの地域の方が圧倒的に多い。個人情報保護のため避難者にアクセスすることが第一のハードルであり、市町村の協力を得るための努力を行い、現在、戸別訪問等が展開されていない地域における見守り活動の体制づくりを進める。

②広域交流会の開催

県内各地で交流会が開催されており、つながりの促進においては昨年度も成果を挙げてきた。ただし、参加者の固定化という課題もあり、より多くの方のニーズにこたえる開催のあり方を模索中である。また、孤立防止という視点で、福島との関係を維持することも重要と考え、交流会には福島関係者（自治体関係者など）にも参加してもらい、参加者に福島の状況を伝えていただく。また、茨城県内の連携先となる社会福祉協議会等の関係者にも交流会に参加していただき、避難されている方と地域のサポート側との出会いの場となるような広域の交流会を、県北・県央、県西地域等で開催する。

③つながりの促進～「おたより」の定期的発行

交流会などへの参加希望は多いものの、実際に参加される方の人数はそれほど多くはない。当事者間での多様な軋轢などが報道されていることから、交流会参加へのハードルが高いことと予想される。避難者の方は、相互の近況には関心を持っておられるため、定期的に「おたより」を発行することで、茨城県内の避難者の方の状況や想いを共有することが可能である。この「おたより」は、HP上での掲載や茨城県内の関係者にも送付することで、避難者の方と茨城の地域社会をつなぐことも期待できる。

④情報発信・情報共有～「かたり場」の開催

県内各地で活動する加盟団体ならびに避難者個人が参加する大規模なイベントを年1回開催する。ふうあい会議でも情報共有はなされるが、参加するメンバーも限られている。年に一度、広く関係者が集う機会を設け、情報の共有と現状と課題を広く発信する必要がある。具体的には、今年度の活動報告や課題共有をとおして、次年度の活動方針や活動内容を検討するための情報共有として2014年2月に「ふうあい語り場」を開催する。

課題2. 組織力強化

①外部団体との連携強化

ふうあいねっとの参加団体のみで多様な個別ニーズに対して十分に対応できる態勢とは言えない。いかに地域社会がもつ社会資源・サポートネットワークと連携・接合していくかが大きな課題として残っている。避難者支援の活動も、震災後、年月が経過するにしたがって、活動団体の減少や資金源などの課題が浮上すると予想される。避難者・支援グループとの連携のもと地域社会が長期にわたり避難者を見守っていく体制づくりが必要である。今年度は、社会福祉協議会や民生委員など地域社会がもつサポートネットワークと避難者支援の連携の拡大を行っていく。支援の輪を拡張するための仕掛けとして、地域リーダー層や社会福祉協議会・民生委員関係者とともに福島視察を行い、避難者が抱える課題の深さの理解促進や共感の呼びおこしにつなげていく。

②中間支援強化

事務局を始め、多くの加盟団体が広域避難支援という前例のない活動に携わっており、先が見通せないなかで活動を行っている。先行事例の教訓を踏まえた活動を行うためにも、神戸への研修視察を行い、阪神淡路大震災の経験を学びたいと考えている。福島県外で避難生活を送られる方々は、地元ふくしまの地域再生に無関心というわけではなく、むしろ熱意・関心をもって語られる方が多い。ふくしまの地域再生に関心をもつ避難者の方と神戸研修視察を実現させ、長期的な地域再生プロセスの課題を先行事例から学び、今後の活動の参考としたい。

③事務局・運営体制の強化

ふうあいねっと事務局は、今年4月から新たな事務局体制となり、事務局コーディネータの募集、交流スペースの確保も行った。ふうあいねっとはすでに2年近い活動経験があり、活動方針や内容が大幅に変更されることはないが、使命感に突き動かされて奔走してきたこれまでの3年を振り返りつつ、中長期的な活動に移行するためにも、さらに事務局の機能強化と安定化を図る必要がある。とくに避難者の方を事務局スタッフとして採用することで、ニーズの確実な把握と雇用創出を達成することが可能となる。

ふうあいねっととしての意思決定を行う運営委員会とは別に、ネットワーク加盟団体が参加して情報共有ならびに具体的な課題解決について議論する「ふうあい会議」を開催する。それぞれの組織・会議の目的を明確化することで、会議の効率化と機能強化を図ることを目指す。

3. 活動スケジュール

	孤立防止・組織力強化のための活動	おたより
4月		
5月	市町村連絡会議(下旬)	
6月	総会&第1回 ふうあい会議第1回 ①運営委員会 ・戸別訪問・電話連絡の枠組み確認	
7月	・訪問活動開始実施(下旬) ・社協・民生委員との交渉・連携開始	①「おたより9号」発行(月上旬)
8月	第2回 ふうあい会議	
9月	②運営委員会 ・広域交流会(第1回)(福島・民生・社協との連携) ・戸別訪問・電話連絡の中間報告	②「おたより10号」発行(下旬)
10月	・第3回 ふうあい会議 ・広域交流会(第2回) ・神戸事前研修会	
11月	・神戸研修(11月上旬) ・福島被災地視察(下旬)	
12月	・第4回 ふうあい会議 ・研修・福島被災地視察報告会 ③運営委員会	③「おたより11号」発行(月上旬)
1月		
2月	第2回ふうあい語り場(月上旬)	
3月	④運営委員会	④「おたより12号」発送(下旬)